

若者向け動画 熱い「生活保護おじさん」

「今月家賃が払えない感じでやばいって相談、めっちゃ多いんだけど……」。動画アプリ「TikTok（ティックトック）」に投稿された動画で、スキンヘッドの「生活保護おじさん」が熱く語る。1分を切る動画ながら、字幕やイラスト、効果音をフル活用しつつ、支援制度のエッセンスを解説していく。いったい何者なのか。

支援制度解説 佐々木大志郎さん

「生活保護おじさん」が動画投稿を始めたのは今年8月だ。12月上旬までに15本の動画をアップした。インスタグラムやツイッターといったSNSでも配信している。

「生活保護 必ず家族に連絡されるの？ 止める方法は？」

「お金ないけど法律トラブル 『法テラス』って使えるの？」

「社協からの特例貸付 返済苦しい。何とかならない？」

「取り上げるテーマは、生活に困窮した人が直面する課題が並ぶ。

「生活保護おじさん」として動画投稿をしているの

は、困窮者支援団体「つくろい東京ファンド」などで活動する佐々木大志郎さん（43）だ。

コロナ禍のなかで、生活困窮者へのスマートフォン、無料レンタル、炊き出し会場でのWiFiや充電設備の無料提供など、若い世代を意識した新たな支援に取り組んできた。

しかし、本場に必要なのに支援情報が届きにくい歯がゆさを感じてきたという。SNSでの動画配信に挑戦した理由は、「食べるものがない、家賃が払えない」という困窮した若い世代が、実際に見ている可能性が高い」と考えたからだ。自らの各SNSには、相

Q: ホームレス支援や子ども食堂の始め方は？

▶ 13:09

Q: 生活保護利用中。引っ越したい。費用は出る？

▶ 5:04

Q: 家賃が今月払えない。何とかする方法は？

▶ 14:51

Q: 生活保護住まいがないと受けられないの？

▶ 13:37

困っている方からの「これは欲しい！」の相談あるある二選

▶ 2:22

Q: 生活保護働いていないと受けられないの？

▶ 6:53

困窮する人に届け 芸人キャラでわかりやすく

談用のメールや、困窮者支援関連の情報のリンクを掲載している。

もうひとつのきっかけは、「メンタリスト」DIGO氏が2021年8月、自身のYouTubeチャンネルのなかで、「ホームレスの命はどうでもいい」などと差別発言をしたできことだった。

同氏はその後、発言について謝罪したが、「インフルエンサーに対抗して発信できるツールが私にはない」と感じました」と佐々木さんは振り返る。

本名ではなく、「ソーシャルグッド系芸人・生活保護おじさん」として投稿している。「動画の世界で注目を集めるには、自分自身が一目でわかるキャラクターになって、旗印を立てないといけない」と覚悟を決めたという。

スマホで撮影し、音響やイラストの追加も自ら行っている。情報の正確性は保ちつつ、福祉制度を利用した経験がない10代20代にも伝わりやすい。そんな表現を心がけている。

「例えば『受給』『給付』という用語は使わないようにしてます」

TikTok (<https://www.tiktok.com/@seikatuhogoojisan>) のフォロワー数は7000人を超えたものの、まだ多くはない。しかし、9月に投稿した「生活保護 住まいがないと受けられないの？」

が13万9千回以上再生されるなど、手応えを感じている。

実際に困窮している当事者からのコメントの書き込みや、SNS経由のメール相談も届き始めた。

ネット空間には、公的支援制度についての不正確な情報も飛び交っている。そうした「グレー情報」とごちゃ混ぜになって、動画が視聴されることに一抹の不安はある、という。

「功罪はあると思うが、現実をふまえて一歩踏み出すしかない」と思っている。

年末に向けては、役所の窓口が閉まる年越し期間を乗りこえる支援情報について、動画を投稿する予定だ。（編集委員・清川卓史）